

記念物
【天然記念物】

ひらくほやすら
平久保安良のハスノハギリ群落
Hernandia nymphaeifolia

指定年月日/
2013(平成 25)年 10 月 27 日
所在地/
平久保 234-1180・外



石垣島最北端の平久保半島東部海岸沿いに、かつて安良村があった。1912(明治 45)年に廃村となった安良村周辺は、開発など人為的な干渉が少なく、豊かな植物相が残っている地域である。

なかでも、海岸沿いのハスノハギリ群落は国内最大規模といわれている。ハスノハギリはハスノハギリ科に属する常緑高木で、アジアやアフリカの熱帯・亜熱帯の海岸に分布し、葉身の直径が 10~30 cm となって盾状に葉柄が付き、「ハスの葉」状になることが和名の由来となっている。樹木としての生長は早く、材は軽くて加工しやすいため、かつては船具

や挽物の材料として利用されてきた。また、現在でも旧盆行事のアンガマ面の材料としても利用されている。

ハスノハギリが群落を形成するには、珊瑚砂が堆積した通気性の良い砂質地、不定期に氾濫する河川水や、台風時の高波などで冠水する平坦な地形が必要となる。安良のハスノハギリ群落がある場所は、この特殊な条件の地形を形成し、見事なハスノハギリ群落を維持している。

記念物
【天然記念物】

いしがきじまひがしかいがん つなみいしぐん
石垣島東海岸の津波石群

つなみうふいし たか いし すうあれ やすらうふ いし
津波大石・高こるせ石・あまたりや潮荒・安良大かね・バリ石

指定年月日/2013(平成 25)年 3 月 27 日、10 月 17 日(追加:バリ石)
所在地/大浜(津波大石・高こるせ石)・桃里(あまたりや潮荒)・平久保(安良大かね)・伊原間(バリ石)



津波大石

1771(明和 8)年旧暦 3 月 10 日に発生した明和大津波では、宮古・八重山両諸島で 12,000 人近くもの犠牲者を出す未曾有の大災害となった。特に石垣島では、人口の 48.6%にあたる 8,439 名が犠牲となった。明和大津波による被害の状況は、『大波之時各村之形行書』に記されており、地震後の海水の引く様子や津波で移動した岩塊の移動距離などが詳細に記録されている。



安良大かね

石垣島東海岸の津波石群は、石垣島の東側にある、津波によって打ち上げられた、または移動したとされる 5 つの巨石の総称として用いられており、それぞれ「津波大石」「高こるせ石」「あまたりや潮荒」「安良大かね」「バリ石」と呼ばれている。

「津波大石」は、表面に付着しているサンゴの年代測定の結果から、約 2,000 年前の先島大津波によって打ち上げられたものであると推定され、残りの 4 つが 1771 年の明和大津波に由来するものであることが、『大波之時各村之形行書』の記録や最新の年代測定の結果、明らかになっている。